



Hochiminh Representative Office

ホーチミン駐在員報告



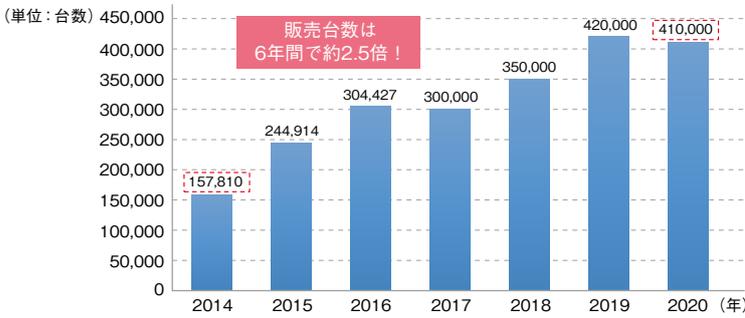
ベトナムの自動車市場

手前：ホーチミン人民委員会庁舎・奥：ビンコムセンター

はじめに

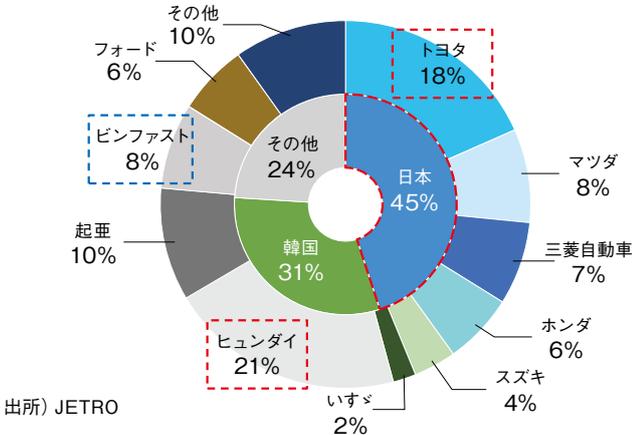
ベトナムでは安定した経済発展に伴い、国内での自動車販売台数は増加傾向にあります。ベトナムの自動車新車市場は年間40万台前後（日本の2020年新車販売台数は、年間約460万台、出所…一般社団法人日本

■ 図1 ベトナムの新車販売台数推移



出所) JETRO

■ 図2 ベトナムの主要ブランド別販売台数シェア(2020年)



出所) JETRO

自動車販売協会)と比較的小規模ですが、6年間で約2.5倍に増加しており、今後の経済成長に伴い更なる拡大が見込まれています。[図1]

本稿では、成長を続けるベトナムの自動車市場についてご紹介します。

国別・ブランド別のシェア

ベトナム国内で販売されている車の国別シェアは、日本が全体の半分に近い45%を占めています。ただ、ブランド別にみると韓国・ヒュンダイが2020年に初めてトヨタを販売台数で追い越し、2021年上半年も販売台数トップを維持しています。[図2]

韓国メーカーは価格設定の柔軟性が高く、車のデザインと機能を絶えず更新していることから顧客を引き付けることができていると言われています。これにより日本車の牙城だった東南アジア市場の一角が崩された格好となっています。

そのような状況の中、トヨタベトナムは2020年6月にトヨタ岡山ダナン販売店(岡山トヨペットの100%子会社)を新規に立ち上げ、ベトナム中部地域の認定代



写真1 ベトナムの国産車 (ビンファスト)



写真2 ビンファストは2021年内に4万ヶ所のEV用充電スタンドの設置を進めている (日本国内は2020年8月時点で約2万ヶ所、出所: 電気自動車充電スタンド情報サイト)



最後に

造にも力をいれており、ベトナム初の電気自動車を2021年末までに発売する予定で、電気自動車用充電スタンドを国内63省市の計4万ヶ所に設置する方針を明らかにしています。

「写真2」

ベトナムでは更なる拡大が期待されるディーラーや製造業(自動車部品・半導体関連)だけでなく、メンテナンス等の関連サービス業や自家用車普及によるレジャー産業の発展も期待できるかもしれません。今後、ますます発展するベトナムの自動車市場から目が離せません。

2021年11月30日現在
(ホーチミン駐在員事務所
佐々木了悟)

理店やサービスステーションのネットワーク拡大を続けています。

地場企業ビンファスト

ビンググループ傘下の「ビンファスト」は、2018年11月に自動車販売を開始したベトナム初の国産車メーカーです。「写真1」

ビンググループは、ベトナム最大のデベロッパーであり、創業者のブオン氏はフォーブスの世界長者番付194位にランク(2019年8月時点)される資産家で、ベトナム国内で大きな影響力をもつ人物の1人と言われています。

同社の自動車販売台数は、

2020年に前年比71.3%増の29,485台となり、シェアは全体の8%となっています。シェア拡大のために、ビンググループの不動産業と連携したキャンペーン(割引券発行など)を行うなど、地場ブランドとしての認知を高めています。

また、同社は電気自動車の製